



2010特別事業 講演とシンポジウム 「巨大台風がやってくる」「ボランティアと社会貢献」



2010年8月24日(火) 午後1時30分～午後3時30分(午後1時開場)図書館交流プラザ「りぶら」ホール(岡崎市康生通西4丁目) 実行委員長 L. 鈴木 豊
 内容 講演「巨大台風がやってくる！」講師 坪木和久(名古屋大学地球水循環研究センター准教授)
 シンポジウム「ボランティアと社会貢献」パネラー 石川春男様(岡崎市消防署署長) 照井光男様(雨水を考える会代表) 丸山泰男様(岡崎市温暖化防止隊長)
 司会L.市川 勇(岡崎竜城LC)

地球温暖化と市民生活の安全、というグローバルな視点とローカルな問題を、岡崎市民として記憶に新しい「水害」をキーワードに、ボランティア活動まで話をブレークダウンするという試みは、私たちクラブ員として、何を提起できるのかわからないまま、当日を迎えました。

地球環境の変化は、「気象に関する政府間パネル (IPCC)」が、地球温暖化に関する最新の知見を集めた第4次評価報告書を平成19(2007)年に公表し、人為起源の温室効果ガスの増加によって、20世紀半ば以降に観測された世界平均気温の上昇のほとんどがもたらされた可能性が非常に高い(90%を超える)と、結論づけました。また、第4次報告書では、将来の気候変化について、今後の世界の社会・経済動向に関する想定から算出した温室効果ガス排出量の将来変化シナリオ (IPCC SRES シナリオ1) 毎に予測結果が示されました。1980～1999年と比較したときの21世紀末(2090～2099年)の世界平均気温の上昇は、環境の保全と経済の発展が地球規模で両立する社会(B1シナリオ)において約1.8℃、すべてのエネルギー源のバランスを重視して高い経済成長を実現する社会(A1Bシナリオ)では約2.8℃、化石エネルギー源を重視しつつ高い経済成長を実現する社会(A1FIシナリオ)では約4.0℃と予測されています。

(情報出典:地球温暖化予測情報 第7巻 気象庁 より)

地球温暖化による海水温の上昇から気象変動のひとつの事象として「スーパー台風の発生」が予測されます。この事象だけでも、これまでの市民生活の安全に係る認識や行動を見直さなくてはならない事態が予想されるわけです。社会インフラの整備においても安全係数の見直しが必要となります。

ボランティア活動としては、地球環境保全の取り組みには、いろいろな切り口があると思いますが、行動しなかったときのリスクを市民へ浸透させることが求められると思います。

坪木先生は講演の中で、気象について、宇宙のなかの地球、地球の成立から説明を下さり、グローバルな見方をご教授くださいました。人類の活動について「我々は地球を先祖から譲り受けたわけではない。子孫から借りているのだ。」というアメリカ先住民のことわざを紹介されました。また市民生活の安全については、寺田寅彦「天災と国防」より抜粋を紹介されました、「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。」

私たちが、これからも快適で安全な生活を送るためには、地球環境の変化を受け入れなければならないと思います。

私たちにできることは、変化を最小限に留めることです。私たちの安全な暮らしを実現する為には、想定されるリスクに備えて、回避する方法を持つことだと思います。

坪木先生のご研究のように、局地的に短時間に発生する積乱雲の解析ができれば、より正確な危険予測が可能となり、私たちは危機回避行動を取ることができます。

今回の事業では、岡崎竜城ライオンズクラブが、地域に向けて何を発信しているかを、直接一般市民のみなさんにお示しすることができたように思います。

目次：

| | |
|----------------------|---|
| 2010特別事業 講演とシンポジウム | 1 |
| 9.18 2010第1回献血キャンペーン | 2 |
| 英国滞在歴に関する献血制限について | 2 |
| 第906回例会 | 3 |
| 334-A地区ガバナー公式訪問合同例会 | 3 |

お知らせ

アクティビティ 2010第1回献血キャンペーン

Give! Your Blood

日時：2010年9月18日(土) 午前10時～午後4時

場所：エルエルタウン 駐車場

岡崎市上和田町南天白5-1

16歳以上の方 ご協力をお願い致します

※16歳以上18歳未満の方は200mlの全血献血に限ってご協力をお願いしております。

平成22年1月27日より、英国滞在歴に関する献血制限が緩和されました。

これまで制限によって機会を逃されていたみなさん、一度ご相談ください。

2010年9月18日(土)午前10時より午後4時まで 岡崎市上和田町南天白5-1 エルエルタウン駐車場において献血車による献血キャンペーンを実施いたします。

16歳以上の18歳未満の方、全血献血200mlに限ってご協力宜しくお願いしております。

平成22年1月27日より、英国滞在歴に関する献血制限が緩和されました。

これまで献血のお気持ちがあっても、制限を受けてご協力いただけなかった方もお願い致します。

献血車のなかではこんなふうに献血が行われています

2009-2010のアクティビティより



英国滞在歴に関する献血制限について

平成22年1月27日より、英国滞在歴に関する献血制限が緩和されます。

<http://www.jrc.or.jp/blood/eikoku/index.html>

英国滞在歴に関する献血制限は、これまで、輸血による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）の感染を防ぐために、予防的な観点に立った暫定的な措置として実施しています。

平成17年2月に国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）の患者が確認されたことを受けて、同年6月1日より、1980年から1996年の間に英国に1日（1泊）以上滞在された方からの献血はご遠慮いただいております。

この度、平成21年12月10日に行われました薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会において改めて輸血用血液製剤の安全性や安定供給等に及ぼす影響について検討された結果、1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限を「1日以上」（1泊以上）から「通算1か月以上」（31日以上）に緩和することが決定されました。このことにより、通算30日以下の英国滞在歴の方であれば、献血にご協力いただくことが可能となりました。

【英国滞在歴に関する献血制限】

以下に該当する方は、これまでどおり献血にご協力いただくことができません。

- (1) 英国に1980年（昭和55年）から1996年（平成8年）までに通算1か月（31日）以上の滞在歴のある方。
- (2) 英国に1997年（平成9年）から2004年（平成16年）までに通算6か月以上の滞在歴のある方。

※ (2) の滞在歴には (1) の滞在歴を加算する。（例：1980年から1996年の間に通算20日間の滞在歴があり、1997年から2004年までの間に通算5か月と20日間の滞在歴のある方は合計の通算滞在歴が6か月以上となり献血いただくことが出来ません。）

【変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）】

抑うつ、不安などの精神症状にはじまり、発症から数年で死亡する難病です。原因は、感染性を有する異常プリオン蛋白と考えられており、感染経路として牛海綿状脳症（BSE）の牛の経口摂取やvCJD患者血液の輸血等が考えられています。

【英国滞在歴に関するリスク】

BSEの原因といわれる肉骨粉が英国で使用され始めた時期が1980年とされています。また、英国での牛の危険部位の流通制限が徹底されたのが1996年であることから、1980年から1996年までの英国は、それ以外の時期よりもvCJDに感染するリスクが相対的に高い時期にあったと考えられます。今般、薬事・食品衛生審議会血液事業部会運営委員会では以下の見解が示され、献血制限の緩和となりました。

- ・英国渡航に由来する感染者がいる可能性が低く、もし、存在しても献血に起因するvCJD感染拡大のリスクは非常に小さい。
- ・英国渡航に由来する新たなvCJD発症者が報告されない状況が続いているので、感染の可能性はますます低くなりつつある。

<http://www.jrc.or.jp/blood/eikoku/index.html>

第906回例会

2010年8月11日 午後12時30分～ 定例会場



担当委員会：市民地域委員会
司会：L. 畔柳伽乙留

MERL委員長より、今年度はクラブジャケットを新調し、誕生祝いの品として全員に贈呈、の報告がありました。クラブ意識の変化に期待を込めて、ひとつの行動が起されました。



今月の誕生祝い

L. 近藤隆義 L. 鈴木佐吉 L. 成田勝博
L. 松平裕実 L. 稲吉康雄
おめでとうございます！

2010-2011 334-A地区ガバナー公式訪問合同例会

2010年8月26日午後2時～

第907回334-A地区ガバナー公式訪問合同例会

日時：2010年8月26日午後2時より
場所：岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」ホール

岡崎葵ライオンズクラブ所属ゾーンチェアパーソンL. 伊奈麻古登の先導で来賓334-A地区ガバナーを先頭に地区役員が登壇されました。開会のことば（岡崎さくらLC会長L. 平尾和子）によって地区ガバナー公式訪問合同例会が始まりました。

L. 榎本舜治ガバナーの挨拶は、国際会長 シド L. スクラッグスⅢのプロフィールの紹介から始まりました。国際会長テーマ「希望の光」「a BEACON of hope」の紹介では、a BEACON を「光明」と訳されました。国際会長はインターネットのブログを用いて 若い世代に問いかけを始められたことを披露されました。

334-A地区ガバナーキーワード「変化への対応」について、社会変化にLIONSが適合してこなかった結果として、現在の会員減少の実態があることを強調され、LIONSの進化の必要性をのべられました。そして、奉仕活動こそがLIONSの命である。実地奉仕活動で市民の意識のなかへの浸透をはかる。自分達の活動の結果に満足が行けば、LIONSの使命が認識でき、LIONIMSが高揚し、クラブの活性化につながる。退会者を減らす術は、クラブの活性化なくして他に方策はない。看板アクティビティでクラブの魅力を増幅して会員増強を計る。と今年度の抱負をのべられました。

国際協会へのはたらきかけとして「日本から国際会長を誕生させる」ことを発言され、山田元国際理事の2013年ドイツ大会での 第2 副会長選挙への立候補、2015年ハワイ大会において国際会長就任をめざす構想をのべられました。

地区ガバナー公式訪問回答書の提出が各クラブ会長より 榎本ガバナーに手渡され、式典は終了いたしました。



編集後記

岡崎市立城北中学には、ニュートンのりんごの木があり、今年初めて実をつけ、生徒達はその「りんごの実」が落下する瞬間を動画で撮影したそうです。ニュートンのりんごの木の親木は、東京大学大学院理学系研究科附属植物園(小石川植物園)にあって、その枝を接木した株が、いろいろなところに植樹されているようです。

http://www.city.okazaki.aichi.jp/appli/06/wp06_view.asp?hdnBangou=9503
<https://www.s.u.tokyo.ac.jp/ken/treasure/12.html>